

築堤護岸工事での創意工夫について

福岡県土木施工管理技士会
株式会社 廣瀬組
監理技術者
野田 義弘
Yoshihiro Noda

1. はじめに

本工事は、熊本・大分・福岡・佐賀の4県を流れる九州最大の一級河川『筑後川』左岸河口での築堤護岸工事である。筑後川は昨年の九州北部豪雨災害の爪痕残る中での工事着手となった。

工事概要

- (1) 工事名：筑後川七ツ家地区上流築堤護岸及び地盤改良工事
- (2) 発注者：九州地方整備局筑後川河川事務所
- (3) 工事場所：福岡県柳川市七ツ家地内



図-1 施工場所

- (4) 工期：平成24年8月1日～平成25年3月29日

2. 工法の概要と問題点

今回の工事は、工事延長がL=435mと長く、施工数量が多く多工種に渡っており、施工時期が有明海での海苔養殖時期と重なるので、工期短縮と海苔養殖への影響が懸念される工事であった。また現場に隣接して漁港が点在し、漁業者の進入路確保が必要となった。

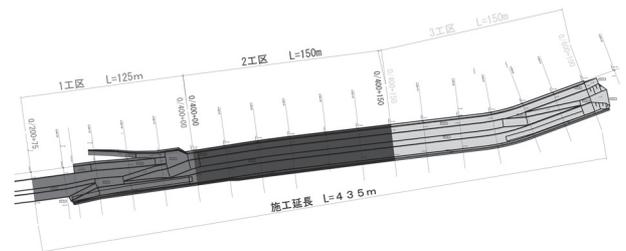


図-2 3工区区分平面図

3. 対応策・工夫・改良点

1) 工程管理について

工程表を作成するにあたり工期・施工量を配慮し、現場を3工区に区分して(図-2)、3社による同時施工を計画した。全体工程表をもとに、工区ごとの工程表を作成し、資材搬入や工区間の調整を日々行い進捗向上に努めました。護岸工基礎コンクリートL=960mを現場打コンクリートか



図-3 基礎ブロック据付状況 L=960m



図-5 近接漁港内に『工事予告板』設置



図-4 パラペット先行施工状況 L=380m



図-6 漁港内進入路塵芥撤去状況

ら基礎型ブロックへ変更し（図-3）コンクリート養生期間を無くしたことで、基礎工施工を20日短縮することができました。

2) 海苔期について

施工時期は海苔生産期にあたり海苔への影響と隣接する漁港への進入経路について、漁業者とのトラブルが懸念された。海苔への影響を考え川表側のパラペット先行施工を行った。（図-4）川表側を先行施工することで、現場と河川を遮断し、現場からの排水が河川へ流出しないように配慮した。川裏部で集水した排水はPH処理機による排水処理を行い放流しました。

堤防道路を全面通行止するために漁港への進入路として川表側に仮設道路を設置し漁業者の生活道路を確保した。道路の切替前にチラシを配布し漁港内には『工事予告板』（図-5）を設け、週間工程表や漁港への進入路案内など積極的に工事情報発信し、漁協や漁業者とコミュニケーションを

図りトラブル防止に努めた。

3) 地域貢献について

筑後川下流域は干潮区域であり潮位差が大きく、九州北部豪雨や台風16号後は漁港内に大量の塵芥が堆積し、漁港内への立ち入りが不能であったために、漁業者からの要請により速やかに撤去作業を行った。（図-6）漁協施設整備に協力し大変喜ばれ、のちに感謝状を頂くことができました。

4. おわりに

当工事は、七ツ家地区着工初年度工事であり、現場に隣接して漁港があり漁業者が頻繁に往来し、工事延長が非常に長い工事であった。

特に、日々の工程管理と3業者による同時施工には非常に苦労しました。工事着手前は、工事完了出来ないのではないかと心配していましたが、無事故・無災害で、漁業関係者からの苦情もなく工事を終えることができました。